

# 琉球大学学術リポジトリ

## 1960年1月の安保条約改定時の核持ち込みに関する 「密約」に係る調査の関連文書No.4

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込み問題, 東郷次官, ホドソン米国大使 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43866">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43866</a>



極秘

核搭載艦船の日本寄港内題の経緯

- 1) 事の始り 1~4
- 2) ラロフ塔迄 5~13
- 3) ラインヤワー塔迄 14~17

コ  
ー  
廠  
秘  
書

昭和60年6月  
石川 北記

(昭和60.6.11. 石川元大佐宛  
受信)

北米向 梁山

- 1) 1962 (or 63) ラインヤワー塔迄の大手2社と  
新する申し入れの正確な内容は知らず  
その数日後当時官房総務部長にあり  
小生を案ずる為 zur hellen 各事案の  
注の通つて。

核搭載艦船の transit の場合  
前  
書  
場  
議  
の  
対  
象  
と  
な  
り  
な  
り  
と  
な  
り  
交  
渉  
出  
場  
の  
岸

小生は自分の承認する限りその始り  
記録は用事欄には存在しない。と  
当時原潜寄港のつぎラロフ塔の核搭載の  
否が、用事欄の対象となり得る。  
事例は原潜寄港の二とを(心附いて)と  
する。 zur hellen の 潜水艦の二とを全く



たすものと想像された。

数年スナイター（交渉、帰朝の日本課長）は、  
 子務省にて Transit の書、陽謀の対策に与らた。  
 二と日東側と誤解した記録があるかと、<sup>10/2</sup> 結局の ~~事~~  
~~実~~ 補して之と答へ、<sup>実</sup> 交渉中、核の  
 持つ込みの書、陽謀に拘り、国防省の <sup>強</sup> 突破  
 に反対して、朝野のつかつ、アイトンハウスで他  
 が訪政する機会と利用して、茶会様の中  
 國務省員の大統領に経済を報告したと、<sup>3</sup>  
 大統領のインタビューは <sup>自</sup> 自分自身利用して後  
 押さるから、対日交渉は國務省の方針通り  
 進めらるゝとの指示があるといふ事実を  
 内証した。

2) ラロック発言とインガリル不協定を重視して、  
 一は海外出張中、の歩に与る各品目  
 (本邦と在米では銀色の宝飾品等) のこころ  
 者物等。その後ある多額のパーティの所上  
 かつレニターの Who is wrong in that  
 matter? といふこと、物事には ~~which side~~  
 白と黒の外に灰色があると云ふこと、灰色  
 の灰色の事、これにやがて ~~その~~ といふこと  
 の通りと云ふこと。

ラロックに <sup>7</sup> といふ ~~ある~~ パーティの <sup>席上</sup>  
~~延後~~ ラロックを個人的に知り、  
 あり延後海軍持参の、ラロックと云う男は海  
 軍部内にも要人だから自分の待遇に <sup>1</sup> とも  
 大層不満ともつといふ人物であるといふ。  
 ラロック発言は <sup>種</sup> 一種の内部報告の補を <sup>1</sup>  
 といふとわらぬ。

インガリル多岐に亘り一応事態を解決したと見  
 之れは、その後在野各派の4、2、1、~~1~~  
 解決は不可行なり、新内閣の必要に迫られた  
 之れは、その後の流れに由来し、9月10日  
 から翌日までのロンドンに向かひ在野各派  
 に木村大臣の出席し、その後金に小生も合流し  
 出席し木村大臣と直接交渉に於ては満足し、  
 引続き27日夕方に飲談の機会<sup>打合せ</sup>を得た  
 際、その要旨を以下の如きに要約した。

ロンドンに於ては、木村大臣は、在野各派  
 を、放置しておき、わが国は、11月27日、二階  
 Transitの事前協議の約束から除外するに  
 是明らかにする外、その意見に、その理由  
 として、例え、現在の貴議院外務委員会（  
 野党多数）が、Transitの事前協議の約束  
 とするに、これと、果敢の行の確信を、示さず

い、決議の採択される可能性あり、是より  
 二、政府の態度に立上り、之れは、是より  
 あつた。小生より二階政府の決断  
 と、之れに賛成である。問題は、Transit  
 の事前協議の約束と、公言し、之れは、政府  
 の結果の意向との矛盾を、どう説明するかある  
 ことと指摘し、之れに對し、木村大臣は、その意の  
 大なる政治的課題とするに、完全な<sup>予想</sup>解決した  
 之れは、外務大臣の自分の責任を、之れに譲渡  
 すれば、可なりである。之れは、~~之れは、~~ 答に、あつた。ロンドン  
 での、駐米大使との交渉、之れに對し、在野各  
 派の意見をおき、之れは、同意は、政府の  
 最高首領の決断に、交する意向に、之れは、自分  
 として、外務大臣<sup>が</sup>の責任を、維持するに  
 するが、結果の意向は、之れは、示さず  
 との強い意見を述べ、之れは、貴院の重要中論

公使(終の世末為)も小生と対し同様の意見  
を述べた。

小生として、上院のほうを相支りも差に拘  
り、何れに組むかのほうに自信をも  
つた。東京に着き、<sup>羽田</sup> ~~羽田~~ 宮内省から赤坂の用  
に ~~赴~~ <sup>直行</sup> した。東京府内、山崎世末為と合流し  
て早速事件の内幕に入った。その席に二階  
は東京府の新台立場を打ったところから、  
田中経理の外、福田、土原両大臣もまた  
浮城府にあり、と云う向かひに、海軍の  
その新台立場と赤坂の経理の政務の  
との矛盾を如何に解決するかと集中して記憶し  
ている。結局を得た。と云う。その向  
小生自身も海軍と山崎 <sup>下</sup> 世末為の英文の文書  
を参考し、それの如何に用ひた ~~と~~ <sup>如何</sup> した  
内容の如何であるかを失念した。

結局小生東京府内中の事件について確たる方針  
は不定のや、ワシントンに帰した。

その後東京府の事件取極方針について特  
別の情報に接しなかったと記憶している。  
ワシントンに到着し、その際事件の持  
出される可能性のありと否を、その場合  
不同脚にも <sup>小生の私見として</sup> 対する心算を述べた。  
と云う覚しきと云う。しかし、~~その~~ 問題  
に ~~関~~ する ~~事~~ 象徴と云う問題がある。  
私見といふことも、いふ限り正確を期するに  
必要と云う。又、~~その~~ 八七の“次官”と  
言及するに、日本文と云うと、これは  
館内には ~~蔵~~ 蔵と、その移担が ~~山崎~~ 山崎自身  
に ~~英~~ 英訳させたに、その ~~事~~ 確たる内容の失念  
の、東京府内の通りの如何と記憶している。

1) ~~山崎~~ 山崎の ~~事~~ 移担の ~~事~~ 確たる内容の失念

と9) 平衛正向に、日東汽船株式會社の非公表に  
同意した。と云々云々。

2) 日東汽船株式會社の川崎汽船株式會社と提携し  
たため、日東政府は Transit を 事務 協議の  
対象から除外するに同意した。と云々云々。

3) もし日本政府のその指示決定をした  
場合、日本国内の各社に知らせ、支那 (梁山  
号) の英訳を unfathomable repercussions  
に及ぼすこと(恐らざる)を起すことあり。

4) 事務 協議の対象から除外するは  
核搭載の艦船に限り、航空機は含めず  
とした。

5) Transit の 趣旨を 概して、航空  
母艦ミッドウェイの艦隊母艦制を以  
てした。

都道陣の注意を避けるため、ハビグに返信

と夕刻公明に指示して文書を送った。小生より

これは東京からの指示に於ての2-11-21にて

明に示すこと。また内容中 <sup>Transit</sup> 事務 協議の

対象から除外するに同意した。と云々云々。小生の  
私見に於ては、これを明に示すこと。ハビグ

訪日の際、日東側の本件を持ち出すか否かの

定かた。従って日本側の本件に言及し

ない限り、本側の本件を提起しない

方が望ましい旨を(返)ハビグに返信した

これと済んだ。文書の内容に於ては、小生

に示すこと。

ハビグ訪日の際、本件を一切議題としない

旨、之消すこと。ハビグに返信した。ハビグに

この旨を共同歩調案を協議した際、insist

に示すこと。日東側の本件を以て、今後日東

側は、協議 (consult) を 促すこと。趣旨を



此の頃どうかと取り戻したことを記憶している。トランプ  
ンジャーの陣の中にも、<sup>transit問題</sup>~~その~~とその後には米内閣の  
御儀申次とした...という旨のことがあつたのかしら...。

事件 日本及び郵政... 原因  
... 経緯は、

恐らく昭和四年内務省... 金融政治問題...  
Kame duck と云つた... 事か最大の理由であつた  
と思つた。

その後正確な日時を忘れた。米國西海岸  
に行かれた際あるレンジャーに出会して米海軍艦隊  
部長 (スミヤウキ?) が、自分は Transit の  
申付 協議の代表と云つた旨... 云々... と  
答言し、その席上口説き出した。...

Jamieson 記者の... 合議...  
... 7. 17 の発付... 云々... Jamieson の  
... 心算... の情報と云ふ  
... 小生 尋問係 通函 位の 雑誌

世界週報(2)の座談会に出席し上記 Jamieson  
記者と海軍元帥府会議事務局と共々、日米商務  
関係... 協議... transit  
の問題... 一切... 座談会...  
終... 経過... Jamieson が  
自分の信託... 米國政府... transit  
... 除外... 云々...  
... 答言し、海軍元帥府...  
... 始終  
... 幕... 小生...  
沈黙を... 云々...



